平成２８年８月１３日（土）

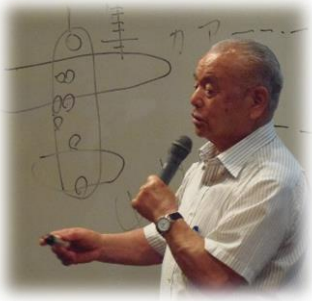
戦時中の体験を聞く会

共催：東松山市

語り手　高橋（たかはし）　義一（ぎいち）　さん　　**演題「重爆撃機『飛龍』での訓練体験」**

【プロフィール】　昭和２年埼玉県生まれ。１５歳で陸軍飛行学校へ入校。重爆撃機「飛龍」に電探係（レーダー担当）として搭乗。現在、埼玉県老人クラブ連合会会長、彩の国健康鉄人の会会長。川口市在住。

【お話の内容】



体験を聞く会の様子

昭和１８年中学３年の修了を待たずに、少年飛行兵を志願。当時１５歳。１７歳で福岡県陸軍大刀洗（たちあらい）飛行場、飛行第九十八戦隊へ転属命令が下った。私は、１トン魚雷を積んだ雷撃機「飛龍」に搭乗した。飛龍は８人乗りで、私の任務は「電探」、つまり電波探知機で敵を見つける役目だった。訓練は日没後、大刀洗飛行場を飛び立ち、朝鮮海峡上空でタキ１（電探）、タキ十三（電波高度計）と呼ばれる電波兵器を作動し続けながら、低空３０ｍからの雷撃演習の繰り返しだった。夜間の訓練には事故がつきものだったが、事故現場は搭乗員には見せなかった。戦意喪失を恐れたからだと思う。

昭和２０年７月半ばに、埼玉県児玉飛行場に移動。８月１１日、金華山沖に出撃したが、敵艦を発見できず、魚雷を海に捨てて戻った。１５日にも出撃予定だったが、終戦となった。結局実戦を経験しなかったが、敵に遭遇していたら終わりだったと思う。

私は１３人兄弟で、４人が戦争で亡くなってしまった。その為に戦後、母は気落ちして病気がちになり、それまでは子煩悩だった父も無口な人になった。戦争はいやですね、戦地に赴いた兵士だけでなく、その家族の生活も変えたり失わせてしまうのだから、絶対にしてはならない。